



## 一流シェフの味を堪能

フランス料理の三国清三シェフ(円内の写真)の名前をつけた「第1回 ABIRA・ミクニカップキッズアイスホッケー大会」が3月30日にせいこドームで開幕し、最終日の4月1日には、シェフ自らが地元産の豚を使ったカツカレーを作り選手たちにふるまいました。



「人間の味覚や嗜好は8歳から12歳ころまでに完成する」と講演会の中で話す三国さんは食育の大切さを強調します。

食欲をそそるカレーの香りが会場内に満ち、子供たちは一流シェフの最高の味を堪能していました。

## 長年の重責に対して旭日双光章を伝達

旧追分町の選挙管理委員として昭和27年9月から41年間(うち37年間委員長)を歴任され今年2月9日に逝去された伊藤嘉太志さんに従六位(特旨叙位)及び旭日双光章が贈られることになり、4月12日にご自宅で行なわれました。

「昨年までは元気だった」と振り返る遺族に瀧町長が文面を読み、栄典の品を渡しました。



伝達式の後、信子夫人は「在任中の主人は選挙期間中は公平で中立の立場を貫いてきたんですよ」と回想しながら話してくれました。

雪の中に隠れていた空きカンやごみが路肩や空き地で目立つ時期

## 空きカン回収を実施



改善が必要ですよ」と参加した人の声が聞こえてきました。

4月21日に追分地区で町内会や団体が協力して一斉に空きカン拾いを行いました。量の多少に限らずごみのポイ捨ては法律違反です。「誰かが捨てなければ貯まらないゴミの山。改めて、ポイ捨てする人のマナーの改善が必要ですよ」と参加した人の声が聞こえてきました。

主催者のフリーマーケット連絡会では、「不用になった物は捨てるという風潮から必要とする人に使ってもらうという発想に



4月15日に安平町労働会

館でフリーマーケット市が行なわれ、自宅で使わなくなったコートや小物などが並べられ、安く販売していました。

## 使える物を皆でリサイクル

切り替え、リサイクルの意識を育てていきたい」という目的で取り組んでいるとのことでした。

## 北国で南国の実がたわわに

「ビワの木にたくさん実がなった」と追分美園在住の木林道治さん(写真下)から連絡を受けて、4月15日に情報提供者の自宅を訪問し撮影しました。

ビワは気候が温暖な地域で栽培され、長崎をはじめ南の地方の特産品です。

「15年ほど前に数個実ったことはあるが、1本の木に20個以上の実ができたのは初めて」とびっくり。

どんな味になっているのか今から楽しみだとのことでした。

